

35.C14771



2615 #5  
PA 7/30/01

PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of: )  
OSAMU YUKI, ET AL. ) Examiner: Not Yet Assigned  
Application No.: 09/655,862 ) Group Art Unit: 2615  
Filed: September 6, 2000 )  
For: IMAGE PICKUP DEVICE ) June 25, 2001

Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231

RECEIVED  
JUL -3 2001  
TC 2600 MAILROOM

CLAIM TO PRIORITY

Sir:

Applicants hereby claim priority under the International Convention and all rights to which they are entitled under 35 U.S.C. § 119 based upon the following Japanese Priority Application:

11-254745, filed September 8, 1999.

A certified copy of the priority document is enclosed.

Applicants' undersigned attorney may be reached in our New York office by telephone at (212) 218-2100. All correspondence should continue to be directed to our address given below.

Respectfully submitted,

*Joseph W. Regas*  
\_\_\_\_\_  
Attorney for Applicants  
\_\_\_\_\_  
Registration No. 38,586

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO  
30 Rockefeller Plaza  
New York, New York 10112-3801  
Facsimile: (212) 218-2200  
178208v1

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

CFO 14771 US  
09/688-662 sug

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 1999年 9月 8日

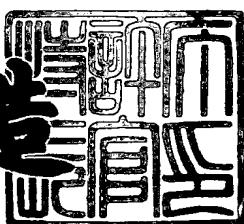
出願番号  
Application Number: 平成11年特許願第254745号

出願人  
Applicant(s): キヤノン株式会社

2000年 9月 29日

特許庁長官  
Commissioner.  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3079963

【書類名】 特許願

【整理番号】 3993002

【提出日】 平成11年 9月 8日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/335

【発明の名称】 撮像装置及び撮像方法

【請求項の数】 10

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

【氏名】 結城 修

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

【氏名】 橋本 誠二

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代表者】 御手洗 富士夫

【代理人】

【識別番号】 100065385

【弁理士】

【氏名又は名称】 山下 穩平

【電話番号】 03-3431-1831

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 010700

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9703871

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 撮像装置及び撮像方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1の撮像領域の画素をn（nは自然数）画素加算して読み出す第1の読み出し手段と、

前記第1の撮像領域よりも小さい第2の撮像領域の画素を非加算、またはm（m<n；mは自然数）画素加算して読み出す第2の読み出し手段と、を有する撮像装置。

【請求項2】 前記第1の読み出し手段により読み出される画素数は、前記第2の読み出し手段により読み出される画素数と略同一であることを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項3】 前記第1の読み出し手段による信号と前記第2の読み出し手段による信号とは、同一の画像データ処理手段でデータ処理されることを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項4】 前記第1の撮像領域内の前記第2の撮像領域を含む複数の撮像領域の露光量評価値と焦点評価値を記憶し、前記第1の読み出し手段か前記第2の読み出し手段かの指定、及び／又は前記複数の撮像領域の読み出し領域の指定に応じて、前記露光量評価値及び前記焦点評価値を、露光量制御及び焦点制御に用いることを有する請求項1～3のいずれかの請求項に記載の撮像装置。

【請求項5】 前記第1の撮像領域内の設定座標の範囲以外の指定は、撮像素子の読み出し領域を限定させることを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項6】 前記第2の読み出し手段により読み出された信号に適する光学ローパス・フィルターを有することを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項7】 前記n画素加算又は／及び前記m画素加算は、水平および垂直の画素加算を含んでいることを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項8】 水平方向及び垂直方向の任意の画素位置から読み出しを行う手段を有することを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項9】 撮像素子の第1の撮像領域の画素をn（nは自然数）画素加算して読み出す第1のモードと、

前記第1の撮像領域よりも小さい第2の撮像領域の画素を非加算、またはm（ $m < n$ ；mは自然数）画素加算して読み出す第2のモードと、を有する撮像方法。

【請求項10】 前記第1のモードで読み出される画素数は、前記第2のモードで読み出される画素数と略同一であることを特徴とする請求項9記載の撮像方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は撮像装置及び撮像方法に係わり、特に撮像領域の画素を画素加算して読み出す撮像装置及び撮像方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

特定の撮像領域を表示装置の画素数より粗く拡大表示する方法が知られている。以下、この方法を用いた撮像装置について説明する。

【0003】

図19に、撮像装置の構成を示す。この撮像装置は、光電変換部101、垂直転送部102、蓄積部103、水平転送部104、信号電荷検出部105および水平転送部104と反対側に設けられた出力部106からなる。なお、矢印は通常の信号電荷の転送方向を示す。

【0004】

図20は、蓄積部を有する撮像装置を駆動させるための代表的なパルス波形例である。図20において、(a)は複合帰線消去信号、(b)，(c)，(d)および(e)は垂直転送部102に印加する4相クロック信号で、それぞれVA1, VA2, VA3およびVA4ゲートに印加する垂直転送パルス波形（以下 $\phi$ VA1,  $\phi$ VA2,  $\phi$ VA3および $\phi$ VA4と記す）、(f), (g), (h)および(i)は蓄積部103に印加する4相クロック信号で、それぞれVB1, VB2, VB3およびVB4ゲートに印加する垂直転送パルス波形（以下 $\phi$ VB1,  $\phi$ VB2,  $\phi$ VB3,  $\phi$ VB4と記す）、(j)はCCD出力信号の有効識

別信号（以下、プリプランキングと記す）、（k）は水平転送部104の信号電荷を信号電荷検出部105へ移す転送パルス（以下、水平転送パルスと記す）波形を示している。

#### 【0005】

次に、図19と図20を参照して従来の撮像装置の駆動方法を説明する。

#### 【0006】

垂直帰線消去期間A3中に、光電変換部101より垂直転送部102へ蓄積された電荷を図20（b）～（e）に示されたチャージパルスC3によって転送する。次に、垂直高速転送パルスF3により電荷を垂直転送部102より蓄積部103へ蓄積部の段数分転送する。次に、映像走査期間B3で蓄積部103へ一水平期間G3ごとに垂直転送パルスI3を印加し、電荷を一水平期間G3ごとに水平転送部104へ転送する。これと同時に一水平期間G3すなわち垂直転送パルスI3の間に水平転送部104上の信号電荷を1回分転送できる周波数の水平転送パルスH3を水平転送部104に印加し、信号電荷を信号電荷検出部105より出力する。

#### 【0007】

また、垂直転送部102に、垂直帰線消去期間A3の開始よりチャージパルスC3が印加される前まで、水平転送部104に対して反対側にある出力部106方向へ垂直高速転送パルスD3を印加し、垂直転送部102にある不要電荷の掃き出しを行う。

#### 【0008】

以上の駆動方法により垂直転送部102と蓄積部103は別々に動作可能となり、電子シャッタースピードがおよそ1/60秒～1/1600秒が可能となる。

#### 【0009】

次に、図21に示したパルス波形図を参照して蓄積部を有する撮像装置における画面の一部を縦および横が2倍で面積比が4倍で表示するための駆動方法を説明する。なお、ここでは画面中央部を拡大するためのパルス波形である（以下、この動作を電子ズームと記す）。図21において、（a）は複合帰線消去信号、（b）、（c）、（d）および（e）は垂直転送部に印加する4相クロック信号

で、それぞれ $\phi$ VA1,  $\phi$ VA2,  $\phi$ VA3,  $\phi$ VA4、(f), (g), (h)および(i)は蓄積部に印加する4相クロック信号で、それぞれ $\phi$ VB1,  $\phi$ VB2,  $\phi$ VB3,  $\phi$ VB4、(j)はプリプランキング、(k)は水平転送パルス波形を示している。

#### 【0010】

まず、垂直帰線消去期間A4中に、光電変換部101より垂直転送部102へ蓄積された電荷をチャージパルスC4によって転送する。次に、垂直高速転送パルスE4により電荷を垂直転送部102より蓄積部103へ段数分転送する。蓄積部103では、垂直高速転送パルスF4により段数の4分の1だけ余分に転送し、水平転送部104、信号電荷検出部105より掃出する。次に、蓄積部103に残った4分の3段分の電荷を、つづく映像走査期間B4で、一水平走査期間G4のほぼ真中の時刻に蓄積部103へ垂直転送パルスI4を二水平走査期間ごとに印加することにより水平転送部104へ転送する。同時に二垂直転送パルス間に水平転送部104上の信号電荷を一回分転送できる周波数の水平転送パルスH4を水平転送部104に印加し、信号電荷を信号電荷検出部105より出力する。この操作により、光電変換部101の蓄積部103側の約4分の1から4分の3の部分、つまり中央部分が一映像走査期間に引き伸ばされて出力される。そして、映像走査期間B4の終わりには、光電変換部101の蓄積部103とは反対側の4分の1の信号電荷は、蓄積部103の一部に残る状態となる。この残された信号電荷は、次の垂直帰線消去期間A4のはじまりの部分にある蓄積部103の高速転送パルスJ4により水平転送部104へ転送され、信号電荷検出部105より掃き出される。

#### 【0011】

次に信号処理回路において、プリプランキング信号により、プランキング処理し一水平走査期間遅延を行い空白部分を補間することで縦と横を2倍に拡大した画面をモニタ画面いっぱいに表示することができる。

#### 【0012】

なお、従来例では画面中央部を拡大したが、拡大位置は任意である。

#### 【0013】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の様な撮像素子を用いた撮像装置では表示装置の解像度と同数の画素数のデータを読み出す撮像素子を用いているので、例えば、撮像面の1/4部分を表示装置全面に表示しようとすると、解像度は水平、垂直で1/2となってしまう。

## 【0014】

また、上記の撮像装置では、任意の位置の部分読み出しを行うことは直接できないので、余分な画素まで読み出し掃き捨てなければならなかった。

## 【0015】

本発明の目的は、撮像素子全面の読み出しによる表示と、例えば、1/4部分の表示に於いても充分な解像度が得られる撮像装置を提案することにある。

## 【0016】

また本発明の他の目的は、読み出し領域の指定が可能とし必要部分だけの読み出しを可能とする撮像装置を提案することにある。

## 【0017】

## 【課題を解決するための手段】

本発明の撮像装置は、第1の撮像領域の画素をn（nは自然数）画素加算して読み出す第1の読み出し手段と、前記第1の撮像領域よりも小さい第2の撮像領域の画素を非加算、またはm（m<n；mは自然数）画素加算して読み出す第2の読み出し手段と、を有するものである。

## 【0018】

本発明の撮像装置は、撮像素子の第1の撮像領域の画素をn（nは自然数）画素加算して読み出す第1のモードと、前記第1の撮像領域よりも小さい第2の撮像領域の画素を非加算、またはm（m<n；mは自然数）画素加算して読み出す第2のモードと、を有するものである。

## 【0019】

本発明の好適な実施形態では、表示しようとする画素数より多くの画素数を有する撮像素子と、その余剰分の画素を撮像素子内、または／および、外で加算する手段を有し、さらに、例えば、増幅型撮像素子の如き、ランダムアクセス可能

な撮像素子を用いることにより、撮像面の全面を表示する加算モード、および、全面表示と同数の撮像データを部分的に読み出す非加算モードの2種の撮像手段を有する。

#### 【0020】

また、加算モードと非加算モードとで、読み出し画素数を略同一（同一又は同一に近い値）とすれば、記憶領域や画像処理部の構成を統一することが可能である。すなわち、複数のモードを有する撮像装置は一般的には記憶領域や画像処理部で複数必要とされるが、本発明では複数モードでの記憶領域や画像処理部構成を統一し簡潔なものとすることが可能である。

#### 【0021】

さらに、自動露光制御（以下、AEという。）や自動合焦制御（以下、AFという。）では、部分指定領域の露光評価や合焦評価が行える様に分割された撮像面で予め評価データを用意記憶しておき、撮像時にはモードや指定領域に合う評価データを用いて制御を行う。この様な手段により、スムーズなモード切り換えや領域指定が可能となる。すなわち、部分読み出しモードでは、AEやAFが複数領域で評価されなければならないが、それらの評価データを複数記憶することにより、速いAE/AFを行なうことが可能となる。

#### 【0022】

読み出し領域の指定では、水平、垂直の画素数を表示画素数に合わせる為に、端が指定された場合でも、充分な画素数が得られる様に読み出し領域のポイントの自動校正手段を付加している。すなわち、読み出し領域の指定で表示装置へ所定の画素数のデータが送れる様に、領域指定の制限を行なうものである。

#### 【0023】

以下、図18(a)～(c)を用いて本発明について説明をする。図18(a)に示すように、撮像素子の撮像領域200の画素数を $a_0 \times b_0$ とし、撮像領域200より小さい撮像領域201の画素数を $a_1 \times b_1$ とし、撮像領域201より小さい撮像領域202の画素数 $a_2 \times b_2$ とする。

#### 【0024】

本発明では撮像領域201（第1の撮像領域となる）のn画素（nは自然数）

ごとに加算読み出しを第1のモードで行い、撮像領域202（第2の撮像領域となる）のm画素（ $m < n$ ；mは自然数）ごとに加算読み出し、又は非加算読み出しを第2のモードで行う。なお、ここでは撮像領域200内の撮像領域201から第1のモードで加算読み出しする場合を取りあげたが、撮像領域200全体を第1のモードで加算読み出しする場合には撮像領域201を撮像領域200（本願の第1の撮像領域を撮像領域200とする）と置き換えて考えればよい。

#### 【0025】

この場合、図18（b）に示す、第1のモードで加算読み出しされて構成される実質的な画素数  $a_3 \times b_3$  ( $< a_1 \times b_1$ ) を、第2のモードの非加算読み出しの場合の画素数  $a_2 \times b_2$  と等しく ( $a_3 \times b_3 = a_2 \times b_2$ ) すれば、第1のモードで読み出された信号の画素数と第2のモードで読み出された信号の画素数は等しくなり、上記のように記憶領域や画像処理部の構成を統一できる。また、図18（a）に示す、第1のモードで加算読み出しされて構成される実質的な画素数  $a_3 \times b_3$  ( $< a_1 \times b_1$ ) を、図18（c）に示す、第2のモードの加算読み出しの場合の画素数  $a_4 \times b_4$  ( $< a_2 \times b_2$ ) と等しく ( $a_3 \times b_3 = a_4 \times b_4$ ) すれば、同様に記憶領域や画像処理部の構成を統一できる。

#### 【0026】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を用いて詳細に説明する。

##### 【第1の実施の形態】

図1は、本発明のシステム構成を示す図である。

#### 【0027】

ここで光電変換は、被写体からの光が絞り羽根1を通り、レンズ2により撮像素子4へ結像されることで行われる。なお、3は、モワレ等を防ぐ為に光の高域をカットする光学ローパス・フィルター、色補正フィルター、および赤外線カットする為のフィルター等が組み合わされたフィルターパックである。

#### 【0028】

撮像素子4で変換された光信号は、アドレス指定部8からの信号によりXアドレス選択部6およびYアドレス選択部5で2次元で画素位置選択が行われ、タイ

ミング調整部7に読み出される。このタイミング調整部7では、撮像素子4からの出力（1～複数本）のタイミング調整が行われる。そして、タイミング調整部7から出力された信号は、AGC（オートゲインコントロール）10により電圧を制御され、A/D変換器11でデジタル信号に変換される。

#### 【0029】

カメラDSP12は、動画または静止画の画像処理を行う。またMPU14は、この画像処理の際に使われるパラメータをカメラDSP12に設定したり、AE、AF処理を行ったりする。なお、AF制御は、フォーカス・モーター51によりフォーカス・レンズ（図示せず）を前後に動かして行う。

#### 【0030】

画像処理する際の一時的な記憶領域としてDRAM13が用いられ、不揮発性の記憶領域として画像記録媒体18が用いられる。画像記録媒体18は、例えば、スマート・メディア、磁気テープ、または光ディスク等である。

#### 【0031】

この画像処理後の表示を行う為にビデオエンコーダ15、および、CRT16等が設けられている。また、ビューファインダー17は、例えばLCDの様なもので画像記録媒体18に記憶する前に被写体を確認したりする為に用いられる。これらの出力装置は、CRT16、および、ビューファインダー17に限らずプリンタ等を用いててもよい。

#### 【0032】

なお、表示領域指定部19は、図5の如き水平1600画素×垂直1000画素の撮像素子の内で図8の様に水平800画素×垂直500画素の読み出しを行う場合に、その位置を指定するポインタ装置であり、本実施形態ではその中央位置を指定する様に構成されている。従って、図5の水平1600画素×垂直1000画素の内の中（800, 500）の座標が指定される。

#### 【0033】

図2に全体処理を示すフローチャート、図3に図2の一部フローチャート、図4に画像処理のフローチャートを示す。

#### 【0034】

先ず、撮像装置の電源をオンした後、図12に示される様な、撮像素子の分割域R2～R5（中央部R1を含む）での露光評価と焦点評価を行い評価値をメモリ（DRAM13）に記憶する（図2のS1, S2）。なお、この測定は定期的に行われる。

#### 【0035】

撮像がオンであればモード判定を行い（図2のS3, S4）、加算モードの場合はアドレス指定部8へ撮像素子の複数画素加算走査のモードが設定される（図2のS5）。例えば、このモードでは図7の如き加算走査の設定がなされる。

#### 【0036】

続いて、メモリから加算モード用AEデータ、例えば、図12の中央部R1のデータをMPU14が読み出し、光学系絞り羽根1とAGC10の増幅率の設定を行う（図2のS6）。また、同様にメモリから加算モード用の図12の中央部R1の焦点評価値を読み出し、フォーカス・モーター51により、フォーカス・レンズ（図示せず）を前後に動かして、AF制御を行う（図2のS7）。

#### 【0037】

他方、非加算モードの場合は、撮像読み出し領域が、表示領域指定部19でポインタ・デバイスにより指定される（図2のS8）。このズーム位置に合わせ、Xアドレス選択部6、およびYアドレス選択部5に先頭アドレスの設定がなされる。なお、この場合の画素読み出しアドレス指定はX, Yアドレス共に1画素ずつ進む順次走査がアドレス指定部8に設定される（図2のS9）。

#### 【0038】

続いて、メモリから非加算モード用AEデータ、例えば、図12の左上R2部分のデータをMPU14が読み出し、光学系絞り羽根1とAGC10の増幅率の設定を行う（図2のS10）。また、同様にメモリから非加算モード用の図12の左上R2部分の焦点評価値を読み出し、フォーカス・モーター51によりフォーカス・レンズ（図示せず）を前後に動かして、AF制御を行う（図2のS11）。

#### 【0039】

このモードに応じた撮像データはA/D変換器11でデジタル撮像データに変

換された後、DRAM13に記憶される。なお、加算モードでも非加算モードの場合でも同じメモリ領域29（図9）が使用される。

#### 【0040】

この記憶された撮像データは、図4に示される様な画像処理が行われ、輝度信号と色差信号としてビデオ・エンコード処理等を受けた後、図3に示される、CRT表示、画像記録、ビューファインダー表示に用いられる。そして、この一連の動作は、撮像オン、オフ判定から繰り返される。

#### 【0041】

以下、加算モードと非加算モードについて詳しく述べる。

#### 【0042】

先ず、本実施形態で用いた撮像素子の動作について説明する。図16において、158はフォトダイオード（以下PDという。）150で蓄積された電荷を増幅MOSトランジスタ160のゲートを浮遊構造としたフローティング・デフュージョン（以下、FDという。）に転送する為の電位障壁操作用転送ゲートのMOSトランジスタである。また、157は該PD150の電荷をリセットする為のリセットMOSトランジスタである。そして、ライン選択用のMOSトランジスタとして159が設けられている。なお、これらのMOSトランジスタのゲートは、各々、PD150の電荷を転送する転送信号線153、FDをリセットするリセット信号線156、および選択信号線152に接続されている。

#### 【0043】

ここで、PD150に蓄積された電荷は、リセット信号線156によりリセットトランジスタ157がオンしリセットされたFDへ、転送信号線153により選択されたMOSトランジスタ158を通して転送され、選択信号線152により選択された選択MOSトランジスタ159を介してソースフォロワMOSトランジスタ160で増幅され、読み出し線154へ読み出される。

#### 【0044】

図17は図16に示された画素の複数配列した画素部と読み出し回路を示す回路構成図である。図17では簡易化のために2×2画素のみが示されている。

#### 【0045】

非加算制御では、図17に示されるMOSトランジスタ161-1が信号線169により導通されることで容量162-1へ該電荷は蓄積される。同様に、PD150-2の電荷は、信号線156-1, 153-1, 152-1、および、169のPD150-1の読み出し制御の際に容量164-1へ読み出される。続いて、信号線167と信号線168が交互にオンされることで、PD150-1, PD150-2の撮像信号は順次に増幅器169を通して読み出される。垂直方向への動作は156-2, 153-2, 152-2の制御から上記と同様の動作により行われる。

#### 【0046】

次に加算制御では、図17に示される信号線156-1, 153-1, 152-1、および、169の制御で、PD150-1, PD150-2の電荷が、各々、容量162-1, 164-1へ蓄積される。続いて、信号線156-2, 153-2, 152-2、および170の制御で、PD150-3, PD150-4の電荷が、各々、容量162-2, 164-2へ蓄積される。この後、信号線167と信号線168を同時にオンすれば、PD150-1, PD150-2, PD150-3、およびPD150-4の電荷を加算した撮像信号が増幅器169を通して読み出される。またPD150-1, PD150-4の信号の電荷を容量162-1, 容量164-1へ蓄積し、この後、信号線167と信号線168を同時にオンすれば、PD150-1, PD150-4の電荷を加算した撮像信号が増幅器169を通して読み出される。

#### 【0047】

上記した制御手段で、非加算と加算での動作を行わせることができる。

#### 【0048】

また、上述した様に信号線156, 153, 152の選択制御手段で垂直の任意の位置を、信号線167, 168の制御手段で水平方向の任意の位置を選択することが可能である。

#### 【0049】

上記した様に図5は本実施形態で用いた水平1600画素×垂直1000画素で構成される撮像素子20である。

## 【0050】

撮像素子20の加算モードは、図6に示される水平800画素×垂直500画素の表示装置30への全面表示のモードであり、図7の40に示すような加算を行っている。ここで、図1の光学フィルター群3に設けられた光学ローパス・フィルターは、1600画素×1000画素で被写体の折り返しを生じない様に設定されている。従って、単純に4画素に1画素を抜き取って読み出しを行えば画像にモワレを生じてしまう。この為、この加算モードでは図7の40の様にR、Bについては水平、垂直で、Gに関しては斜め方向に複数画素の加算を行っている。これにより加算方向の被写体像の空間周波数は落とされ、折り返しによる偽色は軽減される。

## 【0051】

一方、非加算モードは図8の50に示される様に、撮像素子20の内の1/4面を読み出すモードで部分ズームに相当する。この場合、ズーム位置は表示領域指定部19で指定され、本例では中央部分（図5の撮像装置の第250行～第750行、第400列～第1200列の範囲の画素領域）がズームされる。この時、撮像素子20からは図8の50の様に1画素毎の非加算撮像信号が水平800画素×垂直500画素分読み出される。これは、図6の表示装置30の1画素毎に撮像信号1画素が対応しており、従来例の様に表示装置と同様画素の1部の画素をズーム表示するのと比べ解像度は充分なものとなる。

## 【0052】

上述した様に水平800画素×垂直500画素の表示装置30に合わせて加算モードと非加算モードの撮像装置からの読み出し画素数を設定している為に、加算モードの一部分を拡大した非加算表示が解像度を損なうことなく行える。

## 【0053】

また上記例では図6の全画素に対し、図7の如き加算処理を施したが、G11から水平800画素、垂直500画素に対し、図7の加算処理を行なう。一方でG11から水平1600画素、垂直1000画素に対し図24の如き加算処理を行なう。この場合には、G11から（800, 500）までの領域とG11から（1600, 1000）迄の領域を同一の表示解像度で画角を異にして表すことが可能と

なる。

【0054】

さらに撮像素子20に補色系のカラーフィルターを用いた場合でも、図22に示す撮像素子の非加算モードとしてG11から(800, 500)までの画素を読み出し、色分離、画像処理後、水平800画素×垂直1000画素で構成される表示装置30へ表示することを行う。

【0055】

また、加算モードでは図23の如き加算が施され、撮像素子の最大画角としての像が表示装置30へ表示される。

【0056】

この場合の、色分離、画像処理は上記したものと同一である。

〔第2の実施の形態〕

複数の撮像モードを有する撮像装置では、例えば、図14に示される様に、加算モード用メモリ28と非加算モード用メモリ27を2系統用いる方法が考えられる。ここに蓄積された撮像データは、各々、図15で示される加算処理部21、または、非加算処理部22で個別の処理が行われる。この様な処理方式を行った場合、メモリの容量は、加算モード用+非加算モード用となり大きな容量が必要とされることになる。また、処理部も同様に2系統が用いられ、大規模で高速な処理部が必要とされることになる。

【0057】

これに対し、本実施形態では、加算モード時に画素間信号の加算を撮像素子4内で行い、非加算モード時はXアドレス選択部6とYアドレス選択部5で読み出し位置を指定し加算モード時と同じ画素数でズーム撮影を行えば図9の様に加算モードと非加算モード用メモリは共用メモリとすることができる。また、カメラDSP12の処理も図10に示す色分離31、ホワイトバランス（以下WBと略す）処理41、ガンマ（以下、γと略す）補正34, 42、黑白クリップ処理35, 43、ローパス・フィルター処理37, 44, 45、等の一連の処理部を共有し1系統とすることができる。

【0058】

なお、加算モード時の加算処理はA/D11とDRAM13の間に図示しないライン・メモリと加算器によって行っても素子内の画素加算と同様のメモリ、および、処理構成を探ることが可能である。

【第3の実施の形態】

一般に露出調整機構は、光学系の絞り1と映像信号のAGC10の増幅率の制御にて行うものが知られている。この方法で制御を行う場合は、特開昭62-110369号公報に開示される様に、画面を中央領域と周辺領域に分けて、夫々の領域における映像信号レベルを評価値として検出し重み付けした量で光学系の絞りと映像信号の増幅率の制御を行う方法が知られている。

【0059】

しかし、本発明の撮像装置の如く複数のモードを有する場合は、1種類の露光量検出だけではAEに対応することができない。

【0060】

図11のLPF23を通過したR1乃至R5の映像信号は、積分器24によって積分され、DRAM13内のAEデータ記憶領域AE1乃至AE5に記憶される。この動作は、非加算モードで40万画素ズームの場合は、例えば図12に図示される様にセンサ4のR2領域を積分した出力をAEデータ1(AE1)へ記憶する。また、加算モードの時にはセンサ4全体での撮像となるので図12のR1、つまり、画像中央の積分出力をAEデータ2(AE2)へ記憶する。

【0061】

この様に、各モードに応じた露光評価値をメモリ上に記憶しておき、各モードの切り換え時に、記憶されている測光評価値により、AE制御を行えば、例えば所望のズーム域の光量に適した露光が迅速に可能となる。

【0062】

当然R1乃至R5の測光評価値を予めDRAM13に記憶しておき、モードの選択、ズーム位置に合わせてAE制御を行えば、撮像素子4内の任意領域のズームも迅速に行える。

【0063】

次に、焦点調整機構は、現フィールドと前フィールドでの焦点評価値の比較に

よって、フォーカス・モーターを駆動し、合焦させるものが知られている。

【0064】

しかし、フォーカス制御に関しても、前記、AE制御と同様に、本発明の撮像装置の如く複数のモードを有する場合は、1種類の焦点評価値だけではAFに迅速に対応することができない。

【0065】

図11のHPF（ハイパスフィルター）25を通過したR1乃至R5の映像信号は、積分器26によって積分され、DRAM13内のAFデータ記憶領域AF1乃至AF5に記憶される。この動作は、非加算モードで40万画素ズームの場合は、例えば、図12に図示される様に撮像素子4のR2領域を積分した出力をAFデータ2（AF2）へ記憶する。また、加算モードの時には、撮像素子4全体での撮像となるので図12のR1、つまり、画像中央の積分出力をAFデータ1（AF1）へ記憶する。

【0066】

この様に、各モードに応じた焦点評価値をメモリ上に記憶しておき、各モードの切り換え時に、記憶されている焦点評価値と現フィールドとの焦点評価値を用いれば、例えば所望のズーム域の合焦制御が迅速かつ適確に行える。

【0067】

当然R1乃至R5の焦点評価値を予めDRAM13に記憶しておき、モードの選択、ズーム位置に合わせてAF制御を行えば、センサ4内の任意のズーム位置のAF制御が迅速に行える。

【第4の実施の形態】

図1の表示領域指定部19は本実施形態では非加算モードで読み出すブロックの中心を指示するものである。なお実際には開始点や終点を示すポインタとしても構わない。

【0068】

この読み出し領域サイズとして図8の如き水平800画素×垂直500画素を固定してあると、図13（b）の（1600, 800）座標を指定した場合、実際には読み出せない領域が生じる。この場合は図13（a）のdポイント、つまり

り、(1200, 600) 座標がポイントされたと見なして斜線の領域を読み出し表示を行う。他の3角も領域サイズに応じた限界ポイント a (400, 200), b (1200, 200), c (400, 600) を設け読み出し表示の限定とする。

#### 【0069】

つまり、撮像領域内の限定ポイント a, b, c, d で規定される設定座標の範囲以外の座標の指定があった場合は、指定された座標に近い4つの限定ポイントのいずれかが指定されたとして撮像素子の読み出し領域を限定する。

#### 【0070】

##### 【発明の効果】

以上説明したように、本発明の撮像装置によれば、第1の加算モードと非加算モード（又は第1の加算モードより画素数の少ない第2の加算モード）とを制御することにより、解像度の劣化のない拡大撮像が可能となる。

#### 【0071】

また、加算時と非加算時の読み出し撮像データ数を同数とすることにより、モード毎の処理系構成は同一とすることができますメモリと処理系は簡潔な1系統で済ませられる。

#### 【0072】

撮像位置を切り替えたり、モードを切り替えた時は予め記憶されている値で A E / A F 制御が行え切り換えがスムーズに行える。

##### 【図面の簡単な説明】

##### 【図1】

本発明の撮像装置の構成図である。

##### 【図2】

本発明の撮像装置の動作フローチャートである。

##### 【図3】

本発明の撮像装置の動作フローチャートである。

##### 【図4】

画像処理部のフローチャートである。

【図5】

本実施形態で用いた撮像素子の画素構成図である。

【図6】

本実施形態で用いた表示装置の画素構成を表わす図である。

【図7】

加算モードでの読み出し撮像データ構成を示す図である。

【図8】

非加算モードでの読み出し撮像データを示す図である。

【図9】

本発明の撮像装置のメモリ構成を示す図である。

【図10】

本発明の撮像装置の画像処理部を示す図である。

【図11】

本発明のAE／AFデータの記憶状態を示す図である。

【図12】

AE／AFの評価領域の分割例を示す図である。

【図13】

撮像素子からの読み出し領域の限定を説明するための図である。

【図14】

従来の撮像装置のメモリ構成を説明するための図である。

【図15】

従来の撮像装置の画像処理部を説明するための図である。

【図16】

撮像素子の画素構成を説明するための図である。

【図17】

撮像素子の構成を説明するための図である。

【図18】

本発明を説明するための模式図である。

【図19】

従来の撮像装置のCCD撮像素子の構成図である。

【図20】

従来のCCD撮像素子を用いた撮像装置の駆動方法を説明するためのタイミング図である。

【図21】

従来の電子ズーム時の撮像装置の駆動方法を説明するための図である。

【図22】

本実施形態で用いた撮像素子の画素構成図である。

【図23】

加算モードでの読み出し撮像データ構成を示す図である。

【図24】

加算モードでの読み出し撮像データ構成を示す図である。

【符号の説明】

- 1 紋り羽根
- 2 レンズ
- 3 各種光学フィルター
- 4 撮像素子
- 5 Yアドレス選択部
- 6 Xアドレス選択部
- 7 タイミング調整部
- 8 アドレス指定部
- 9 発振器
- 10 オート・ゲイン調整部
- 11 A/D変換器
- 12 カメラDSP
- 13 DRAM
- 14 中央演算ユニット
- 15 ビデオ・エンコーダ
- 16 CRT

- 17 ビューファインダー
- 18 画像記録媒体
- 19 表示領域指定部
- 51 フォーカス・モーター
- 20 撮像素子画素構成
- 30 表示装置画素構成
- 40 加算モードでの読み出し撮像データ構成
- 50 非加算モードでの表示用画素構成
- 29 本提案の画像メモリ構成
- 31 色分離
- 32 高帯域輝度処理部
- 33 広帯域化処理部
- 34  $\gamma$ 補正
- 35 黒白クリップ処理部
- 36 加算処理部
- 37 ローパス・フィルター
- 38 輪郭補正部
- 39 色信号処理部
- 41 WB処理部
- 42  $\gamma$ 補正部
- 43 黒白クリップ処理部
- 44 ローパス・フィルター
- 45 ローパス・フィルター
- 23 ローパス・フィルター
- 24 積分器
- 25 ハイパス・フィルター
- 26 積分器
- 27 非加算モード用フレーム・メモリ
- 28 加算モード用フレーム・メモリ

## 21 加算処理部、非加算処理部

R1 乃至 R5 AE/AF 評価用分割エリア

AE1 乃至 AE5 AE データ記憶領域

AF1 乃至 AF5 AF データ記憶領域

a, b, c, d 領域指定ポイント

A1, A3, A4 垂直帰線消去期間

B1, B3, B4 映像走査期間

C1, C3, C4 チャージ・パルス

D1, D3, D4, E1, E4, F1, F3, F4, K1, J4 高速転送パルス

G1, G3, G4 水平走査期間

H1, H3, H4 水平転送パルス

I1, I3, I4 垂直転送パルス

101 光電変換部

102 垂直転送部

103 蓄積部

104 水平転送部

105 信号電荷検出部

106 出力部

150 フォトダイオード

151 画素アンプ

152 選択信号線

153 転送信号線

156 リセット信号線

157 リセットMOSトランジスタ

158 転送MOSトランジスタ

159 選択MOSトランジスタ

160 ソースフォロワMOSトランジスタ

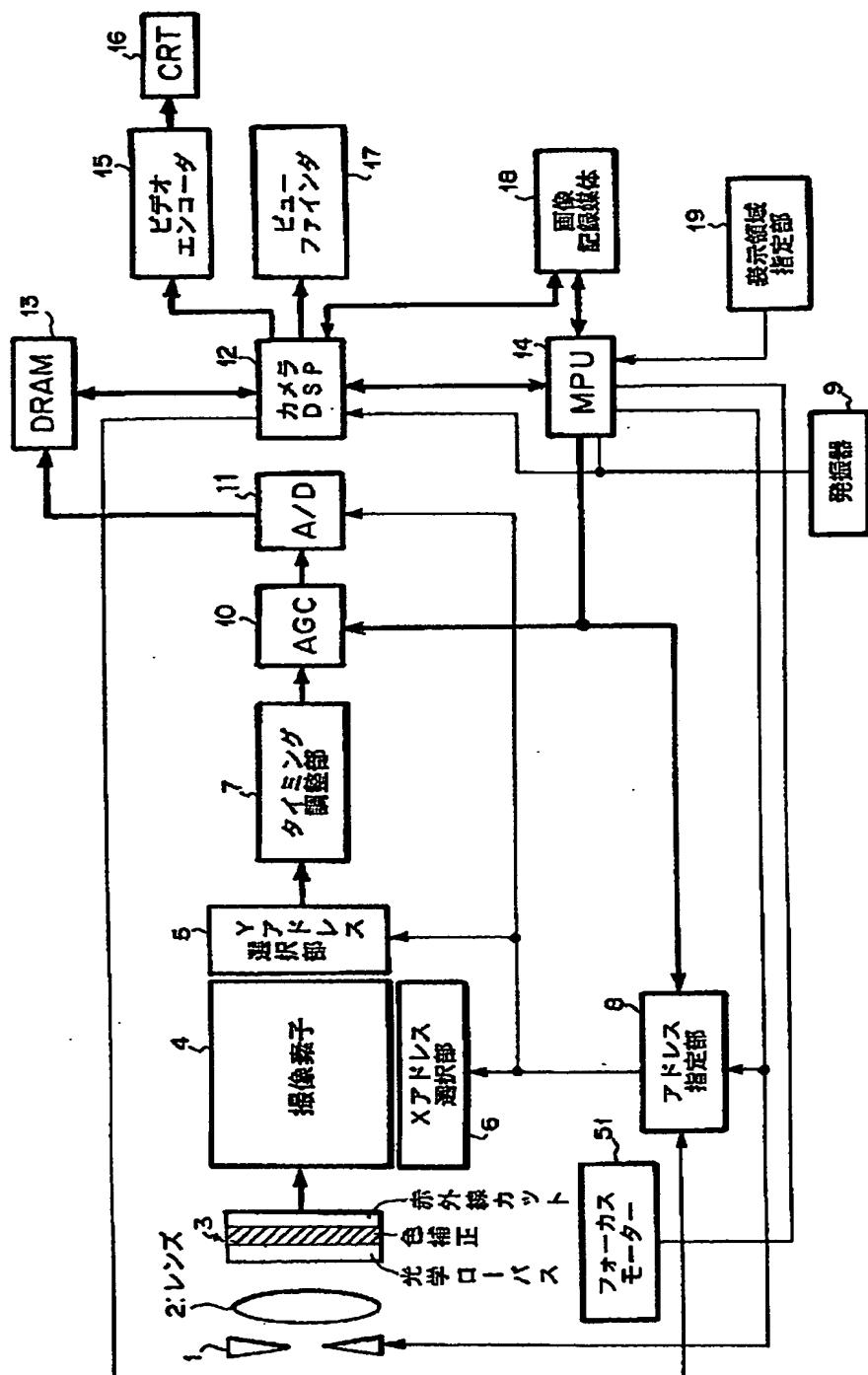
161 CT選択MOSトランジスタ

- 162 CT
- 163 CT選択MOSトランジスタ
- 164 CT
- 165 水平転送選択MOSトランジスタ
- 166 水平転送選択MOSトランジスタ
- 167 水平転送選択信号線
- 168 水平転送選択信号線
- 169 増幅器

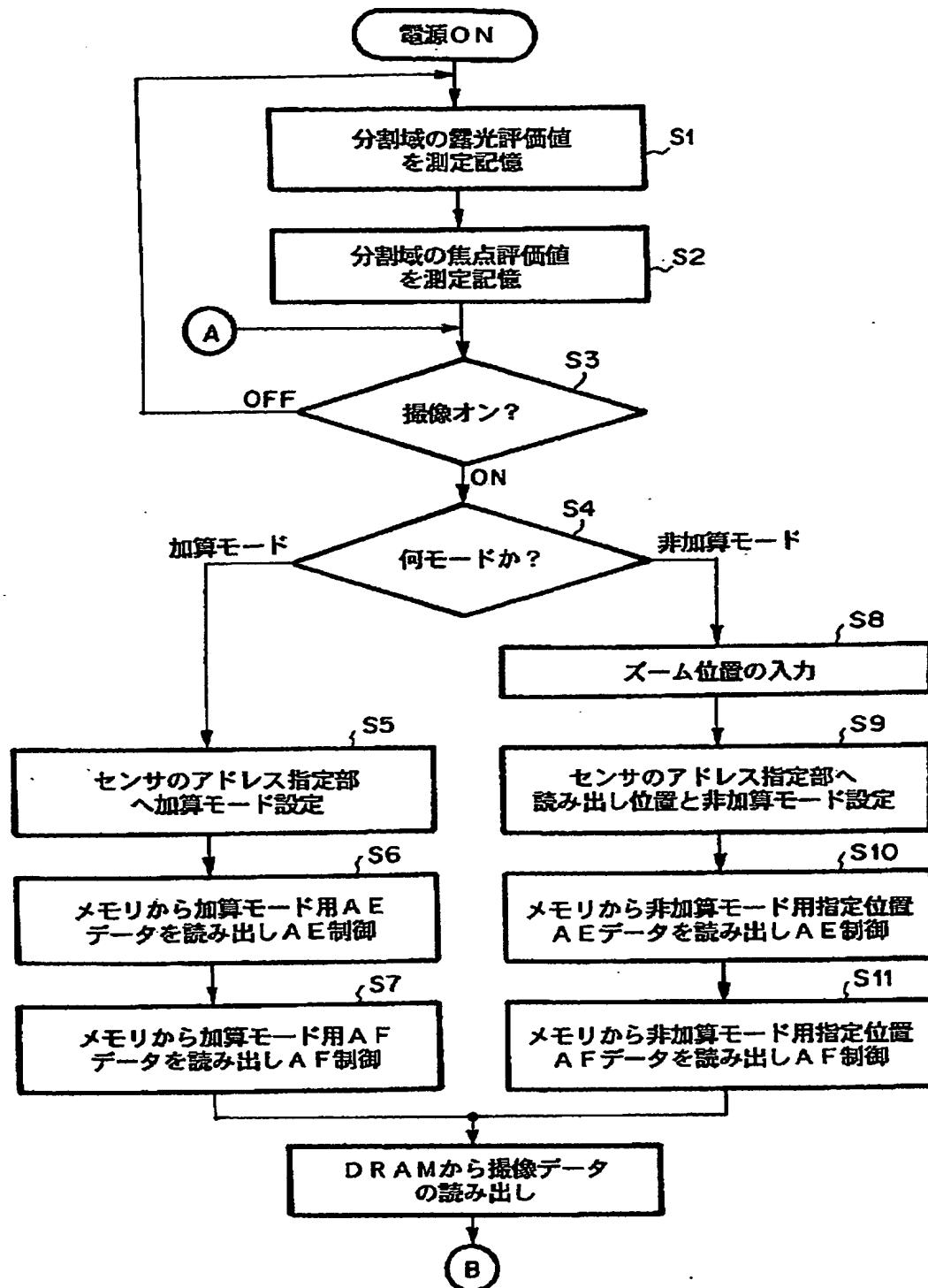
【書類名】

圖面

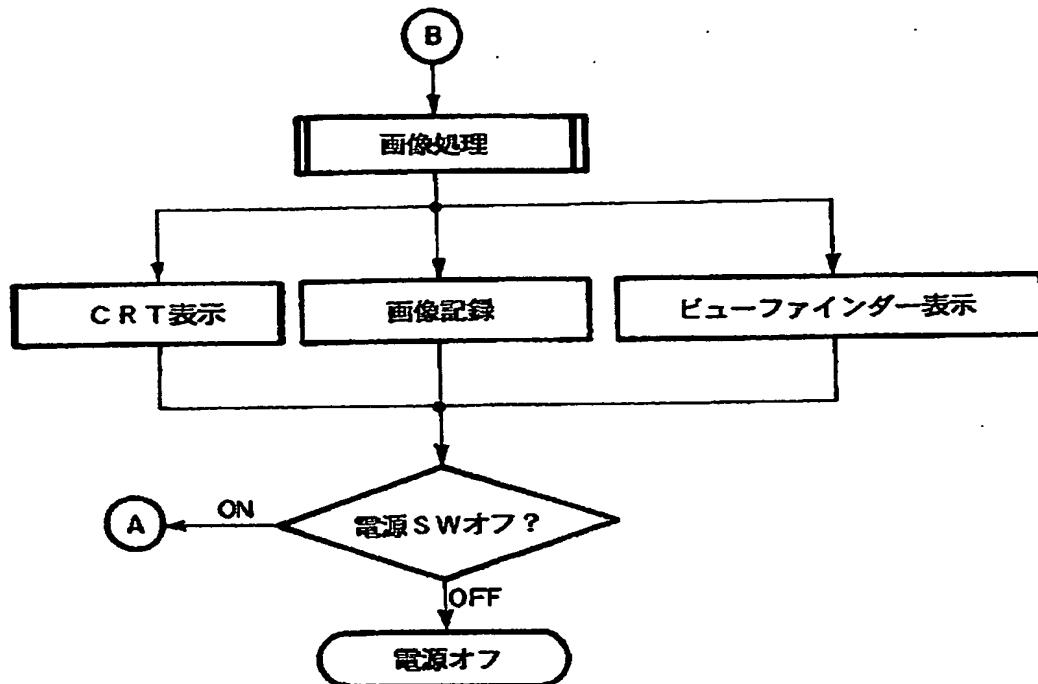
【図 1】



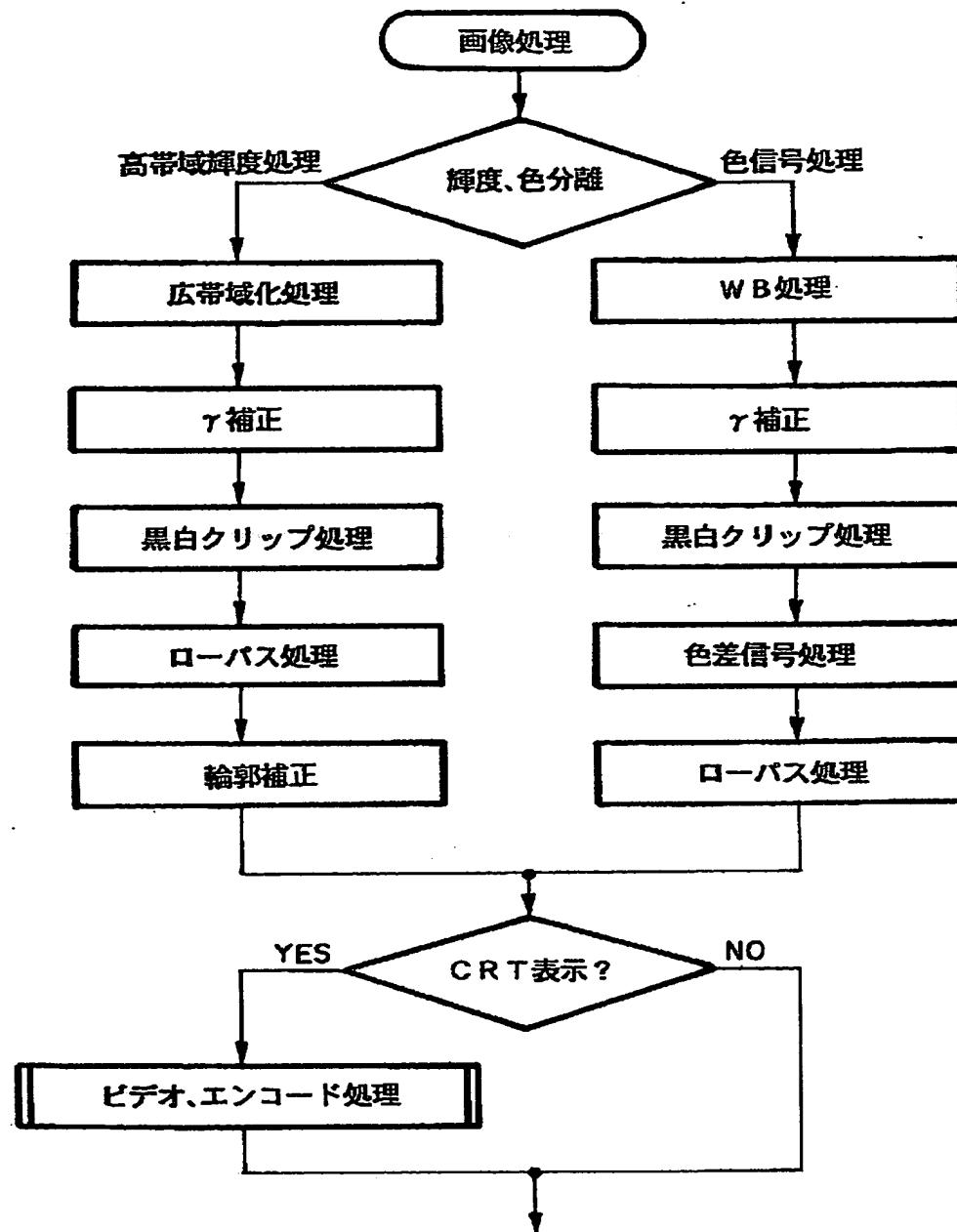
【図2】



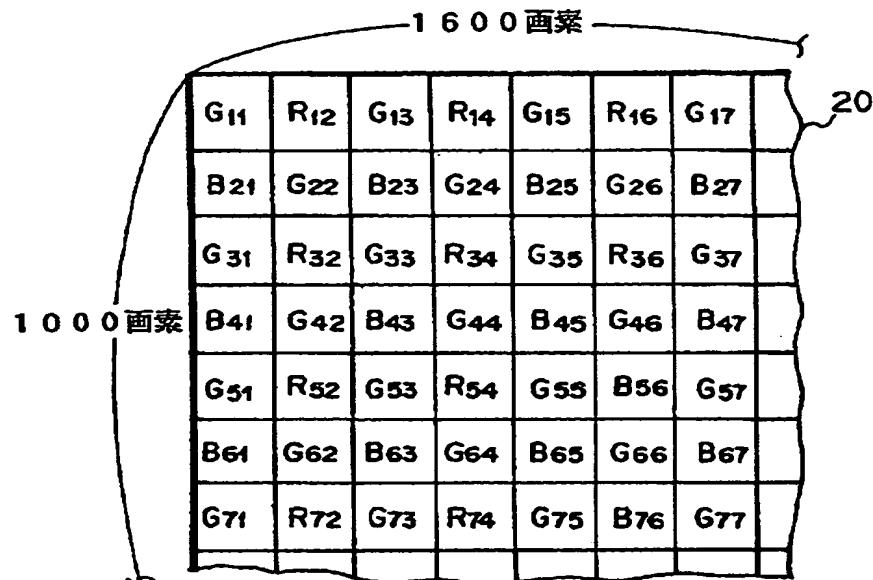
【図3】



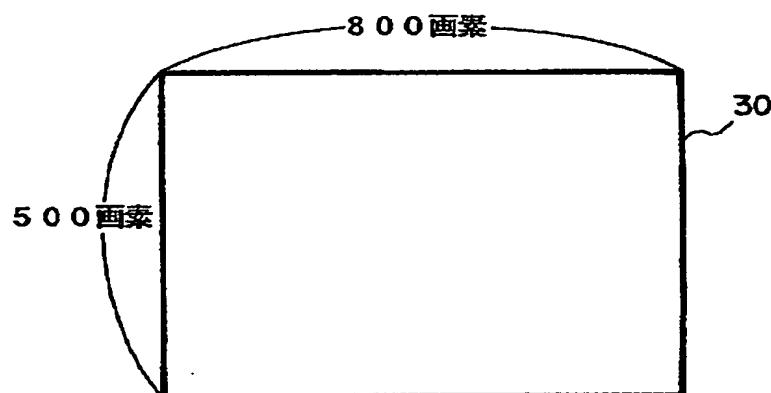
【図4】



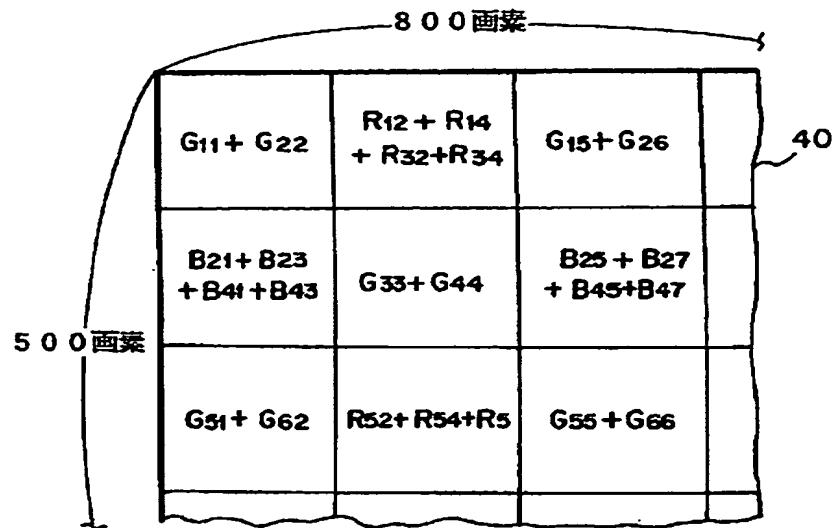
【図5】



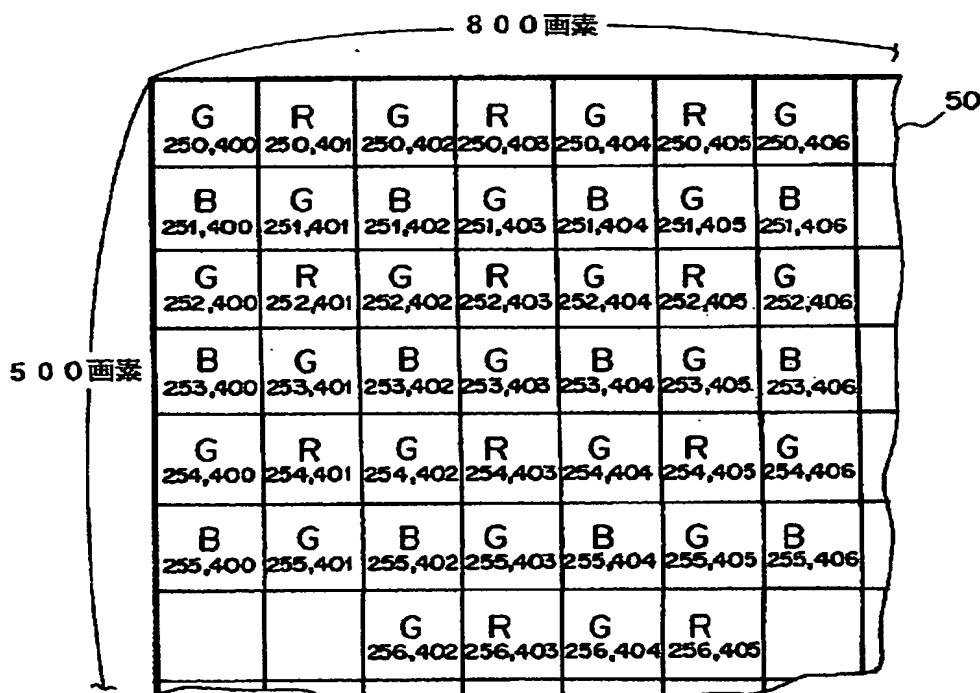
【図6】



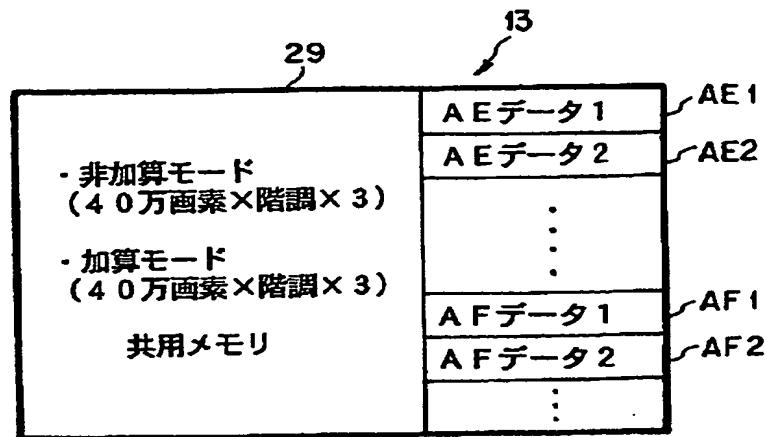
【図7】



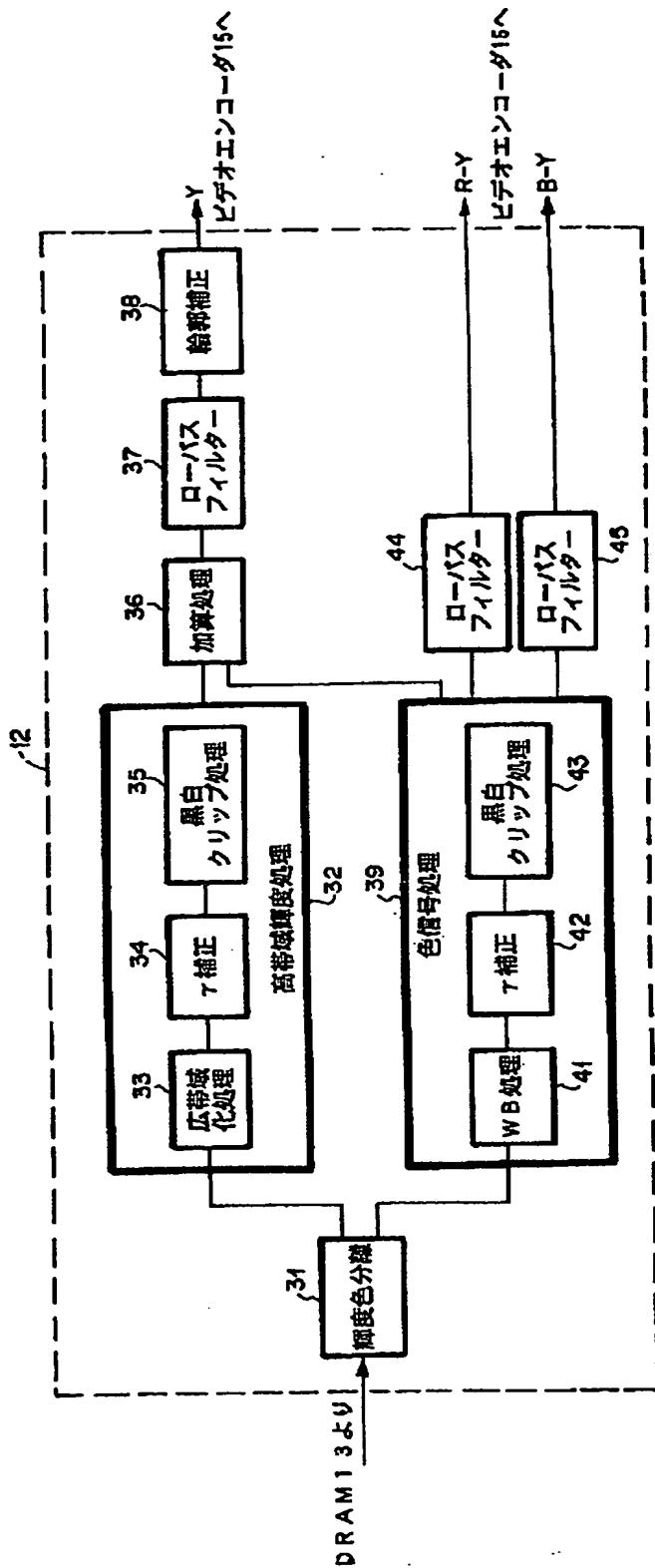
【図8】



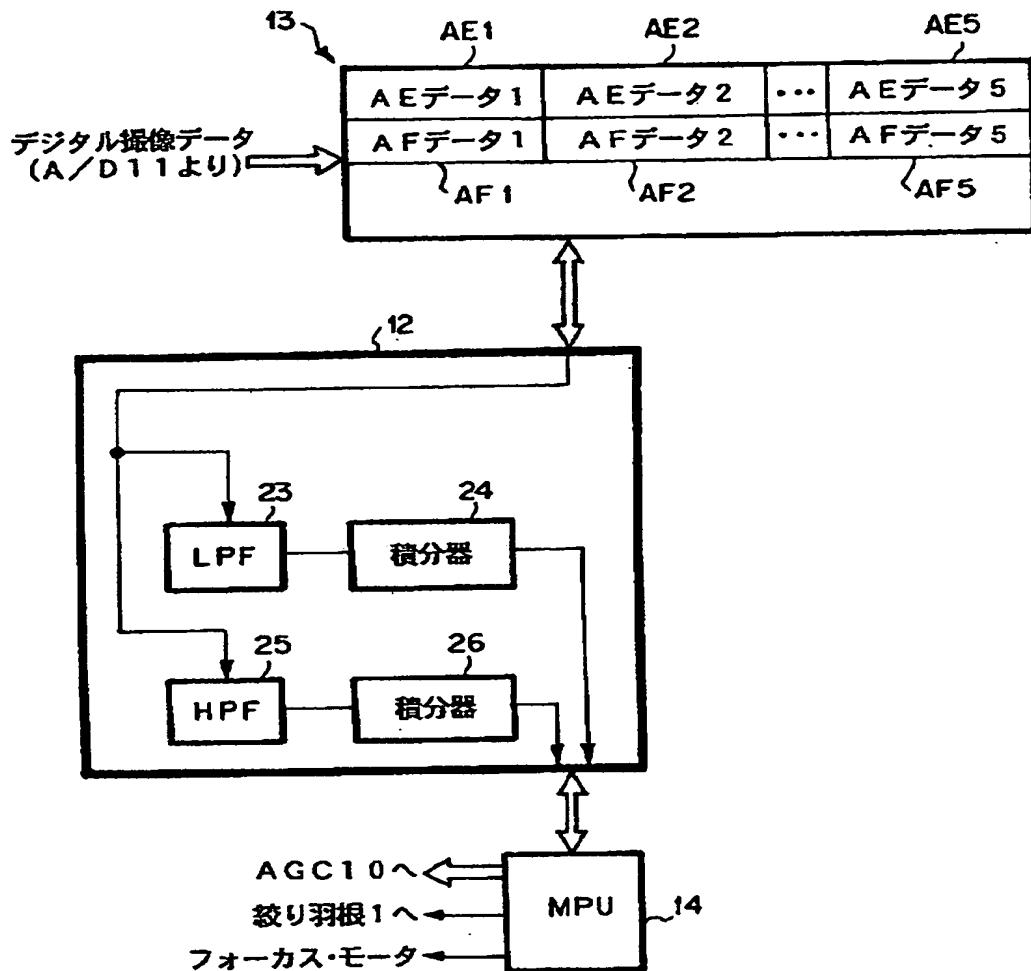
【図9】



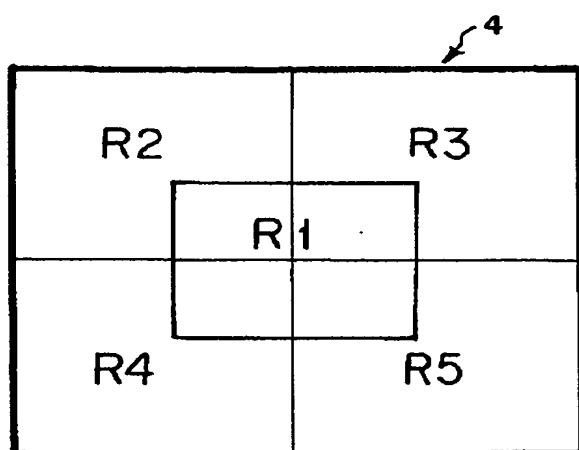
【図10】



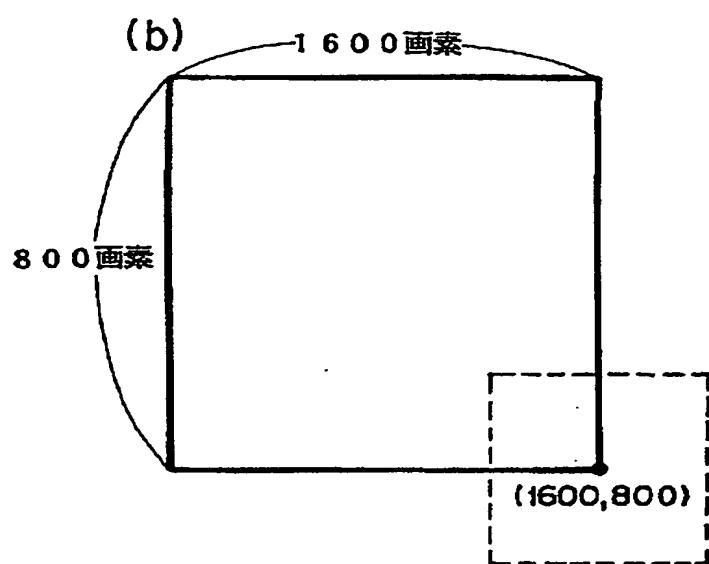
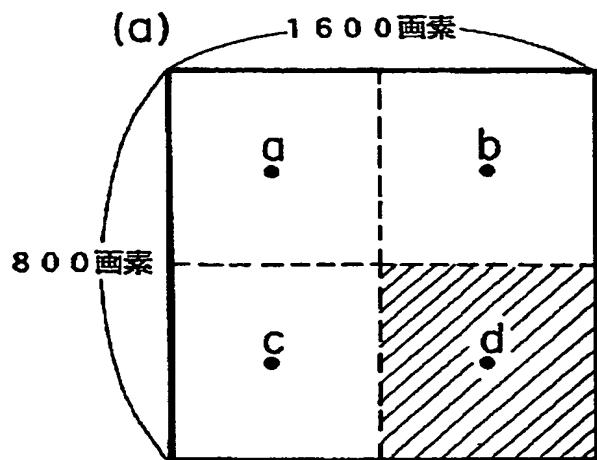
【図11】



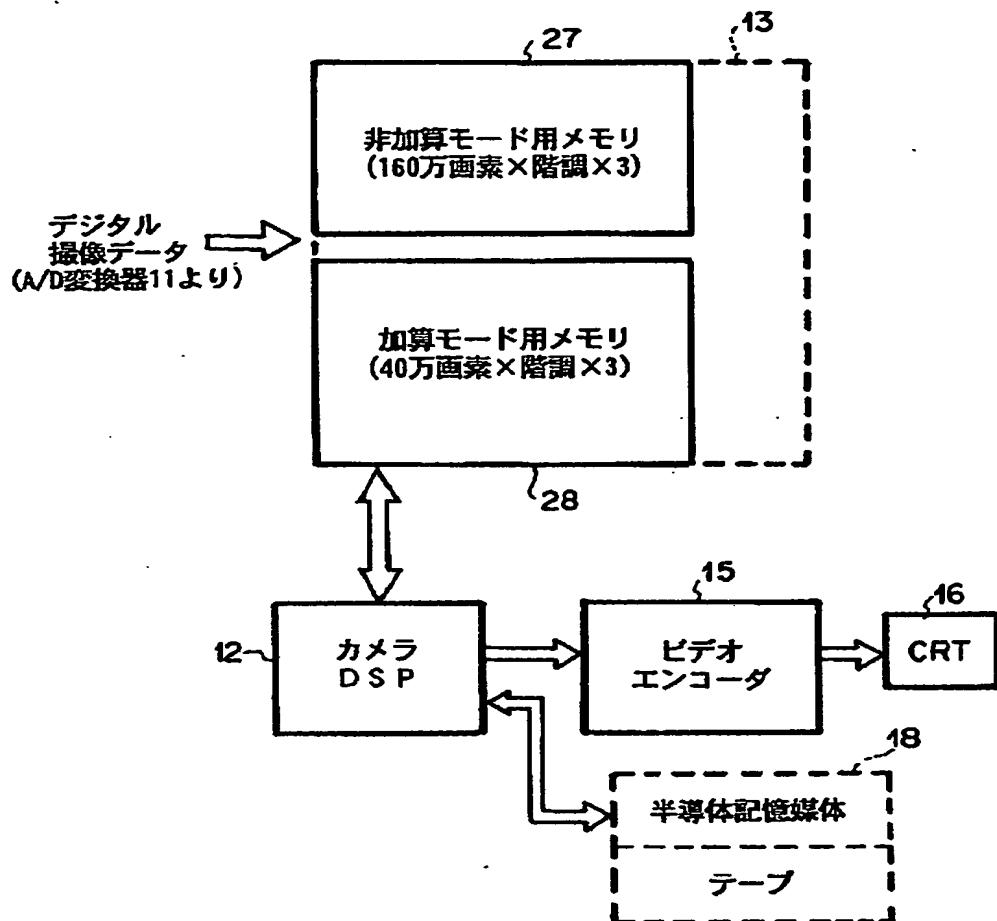
【図12】



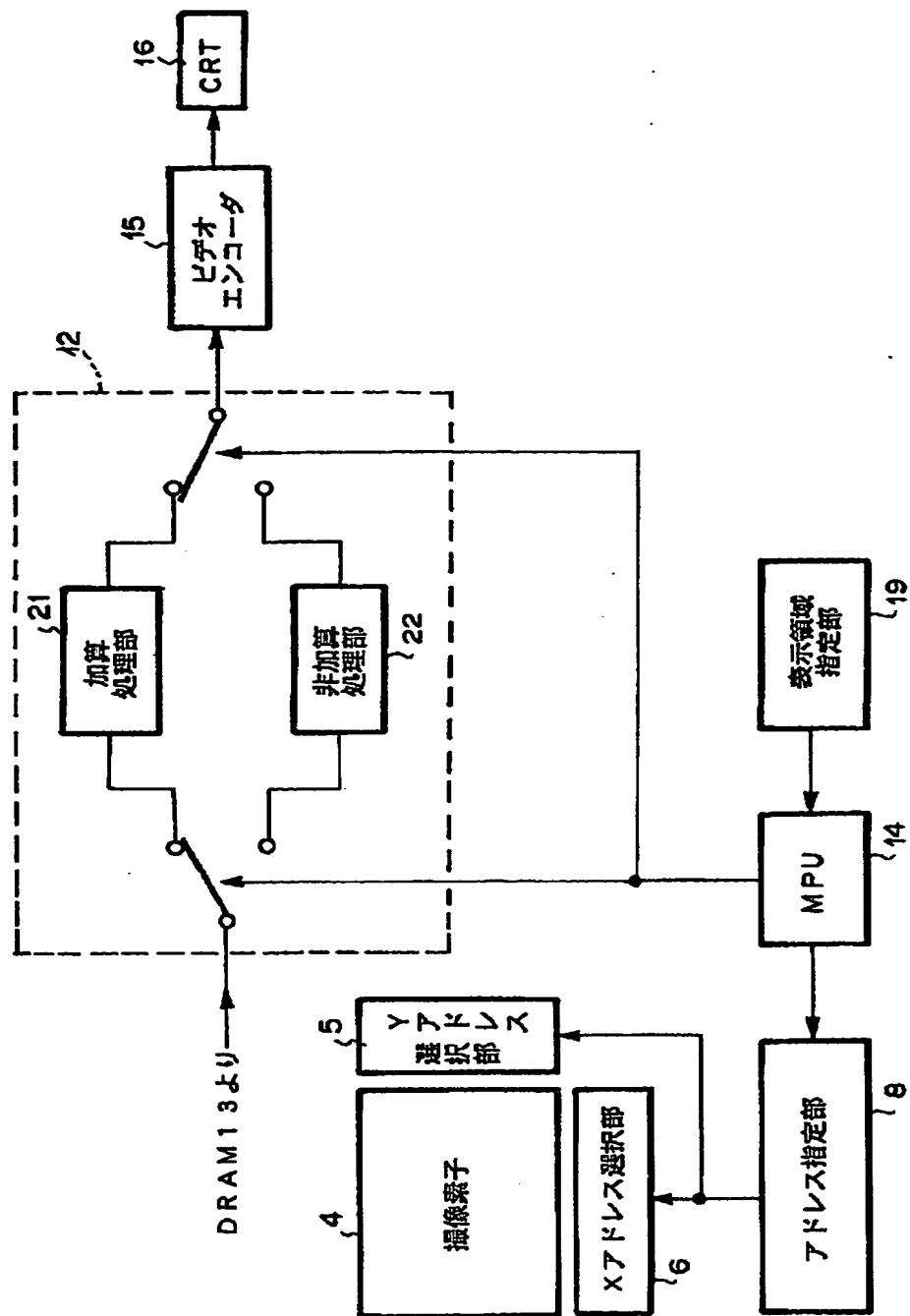
【図13】



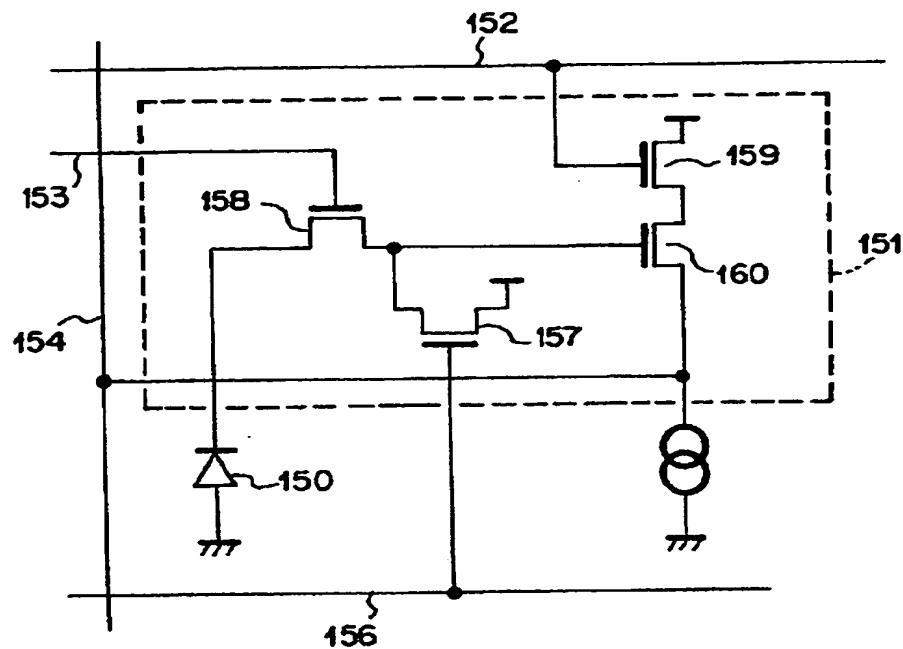
【図14】



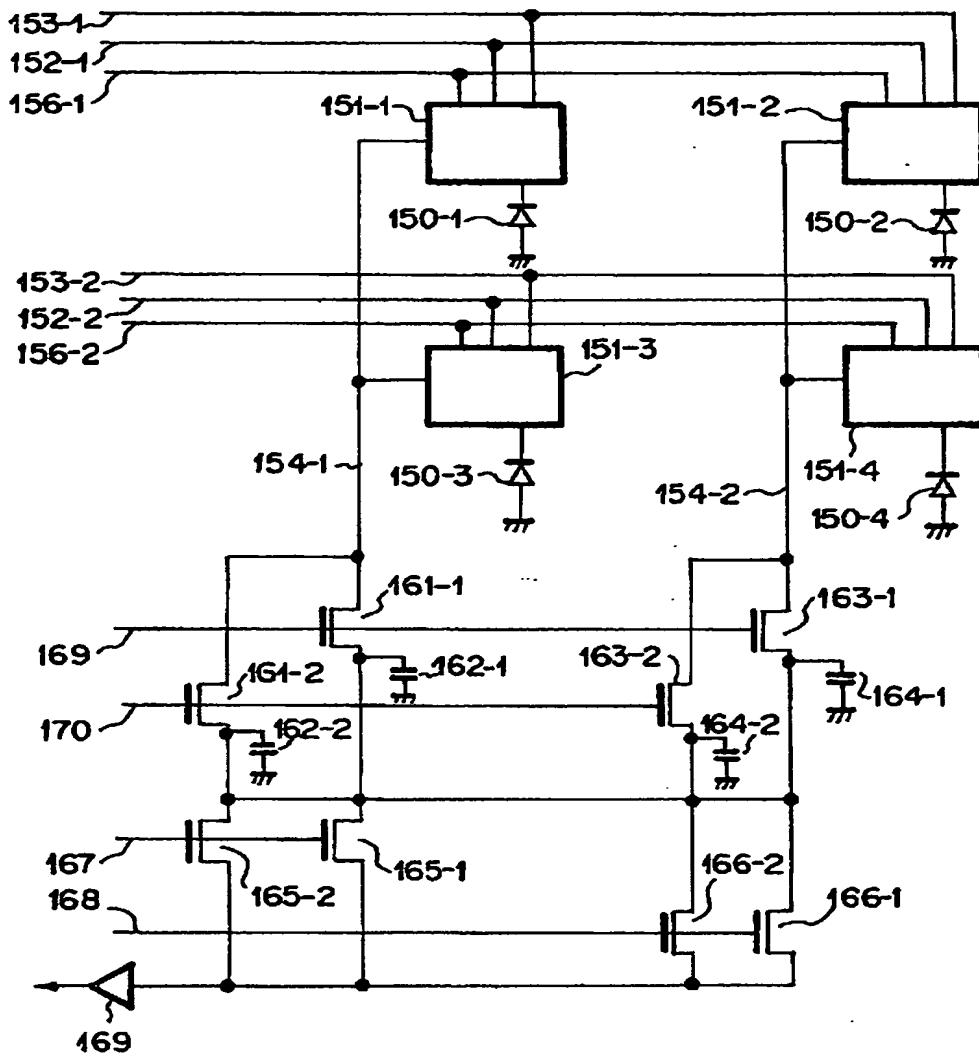
### 【図15】



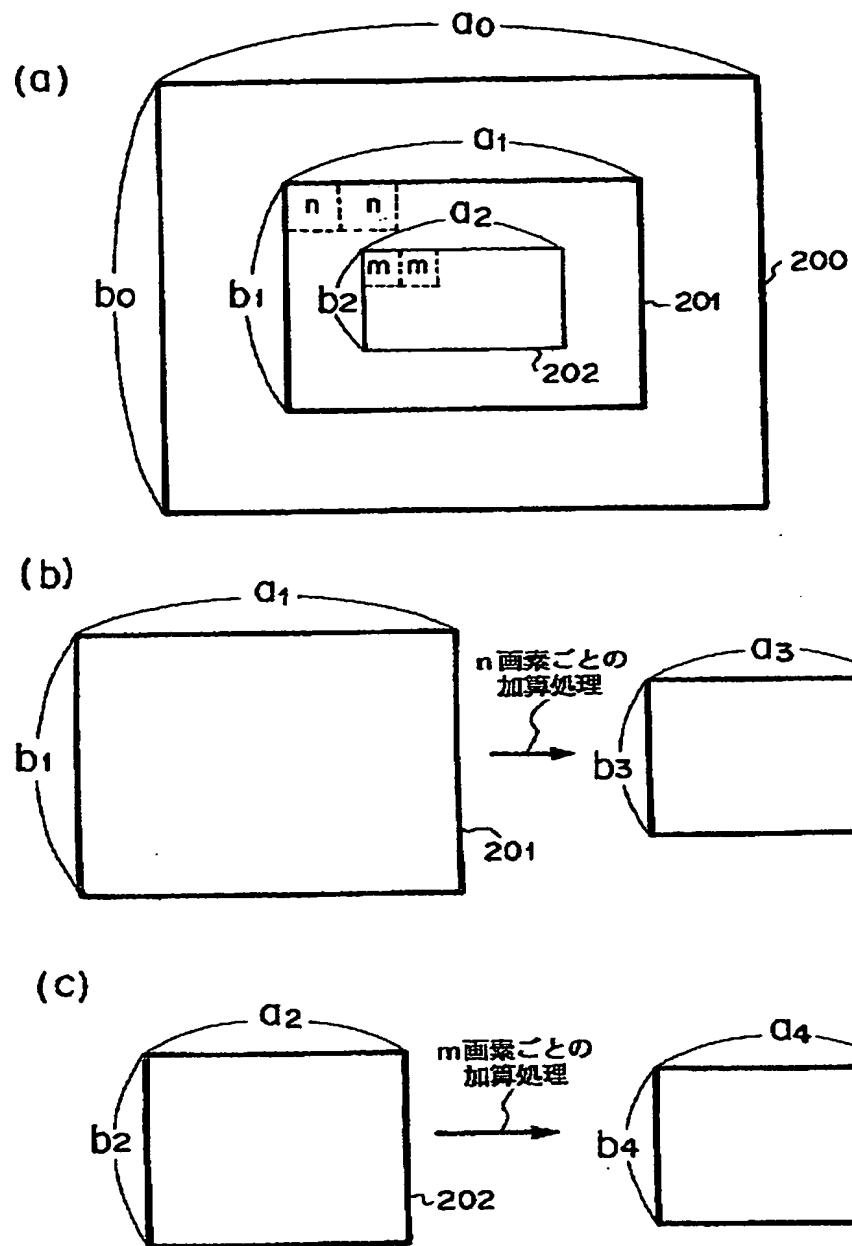
【図16】



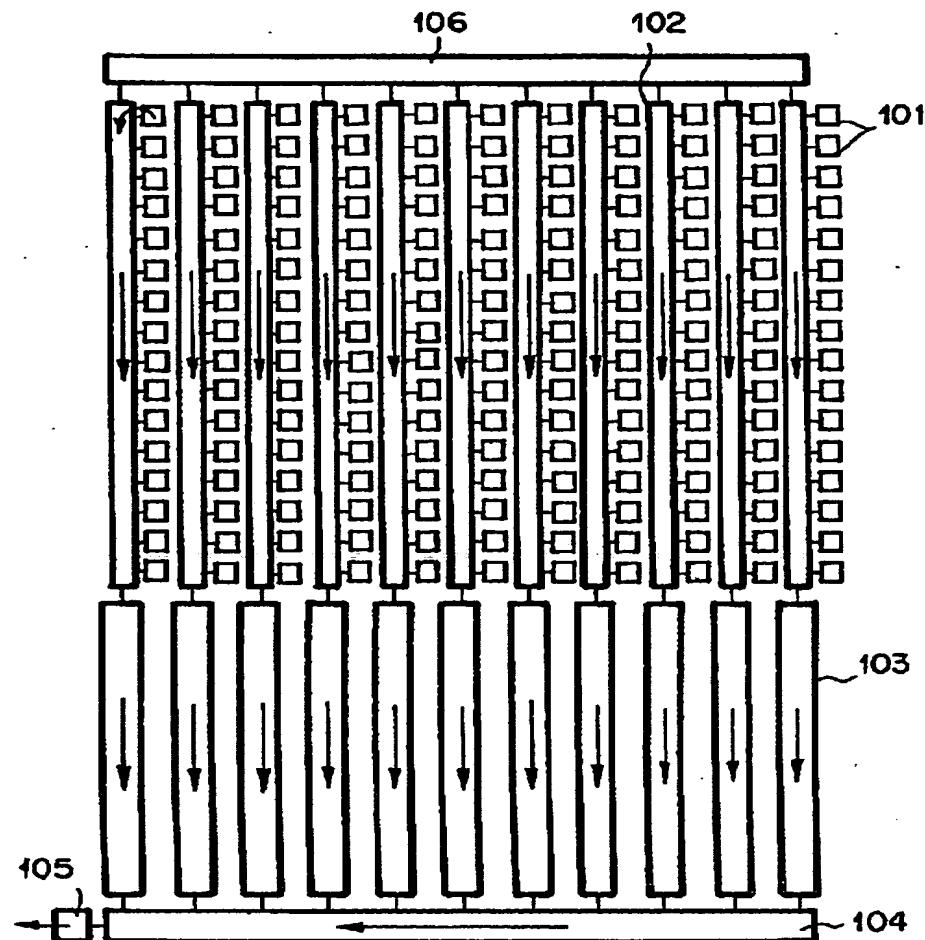
【図17】



【図18】

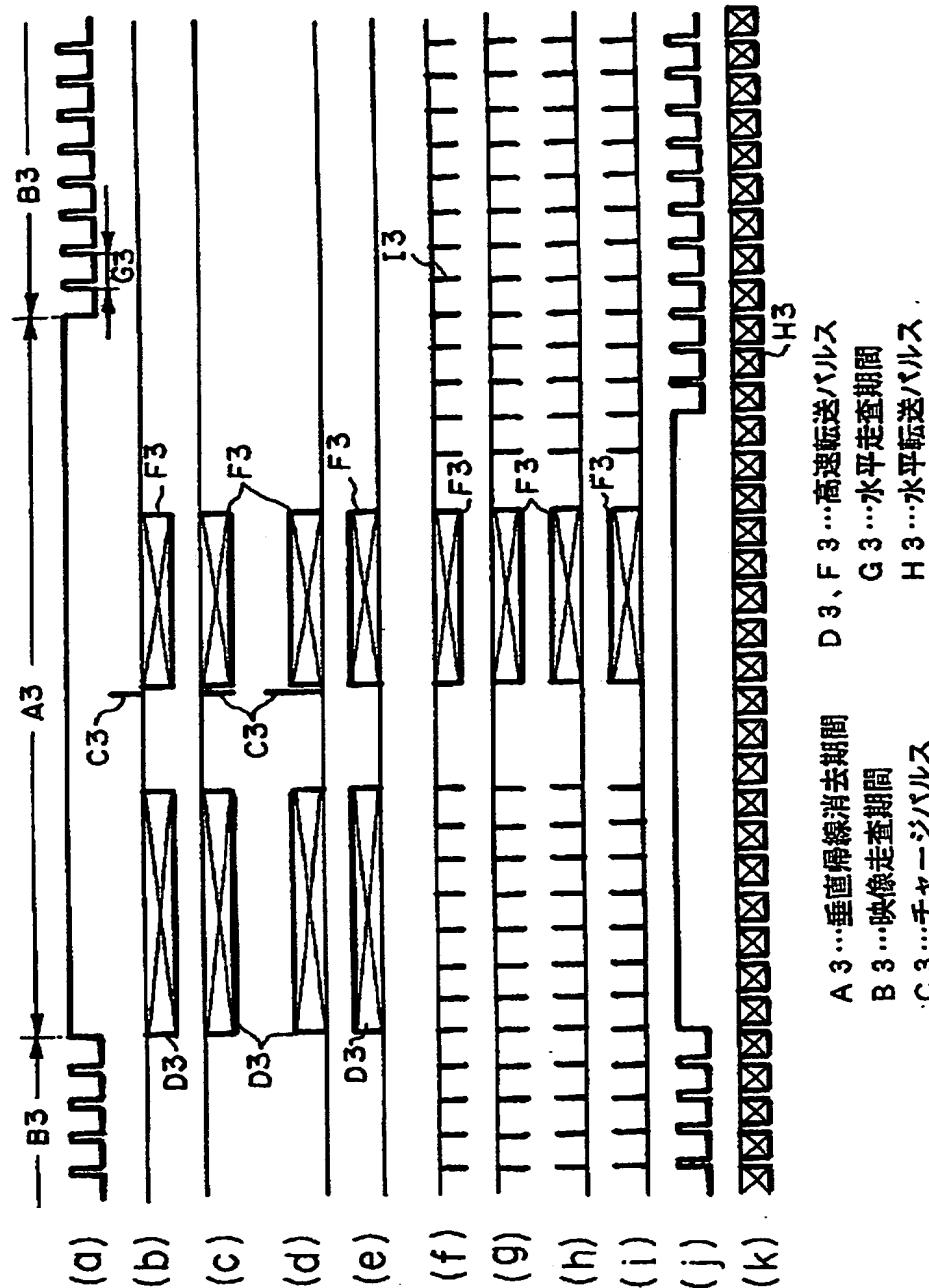


【図19】



- 101…光電変換部
- 102…垂直輸送部
- 103…蓄積部
- 104…水平輸送部
- 105…信号電荷検出部
- 106…出力部

【図20】

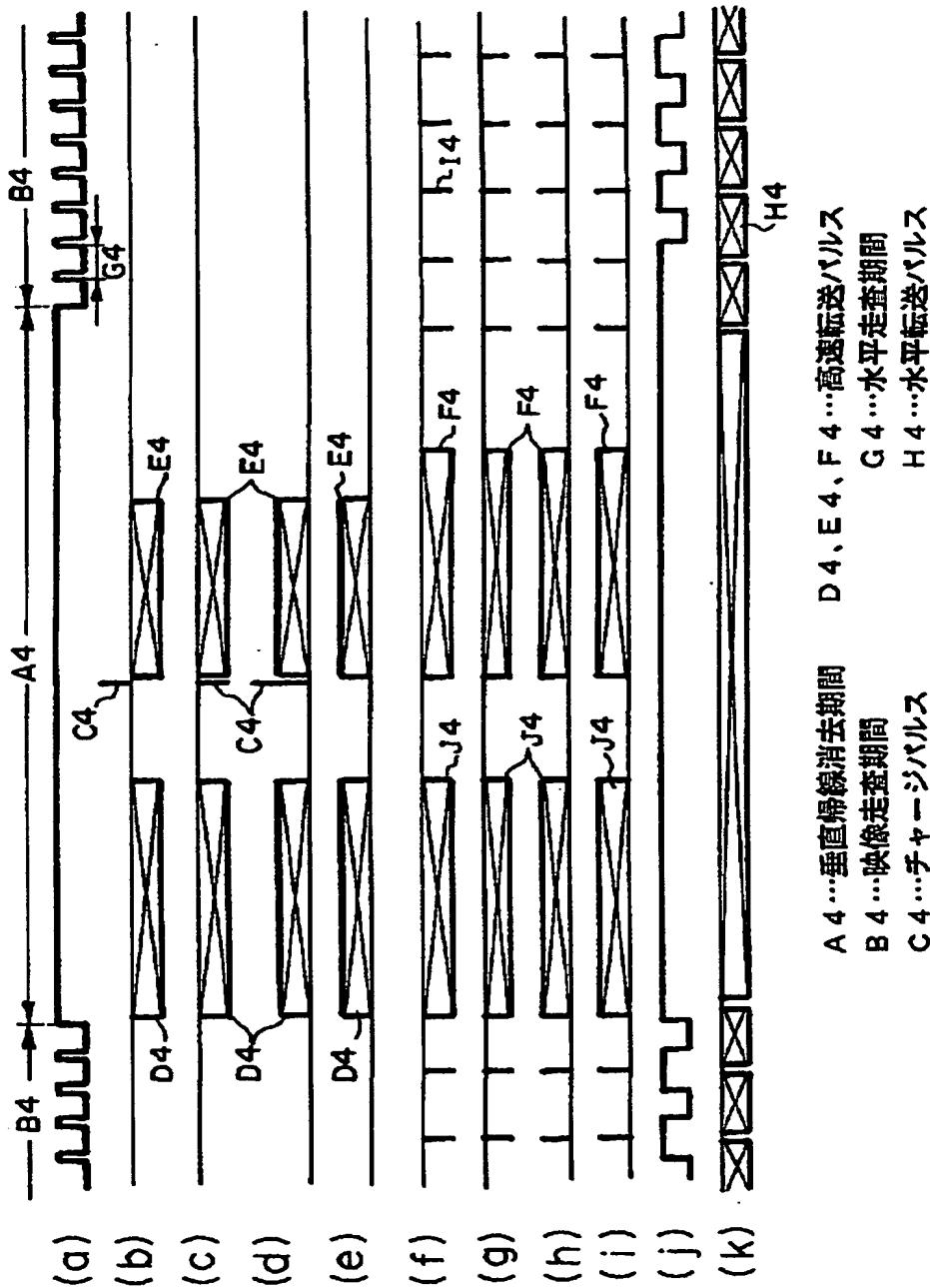


A3…垂直掃線消去期間 D3…高速転送パルス

B3…映像走査期間 G3…水平走査期間

C3…チャージパルス H3…水平転送パルス

【図21】



A4…垂直刷新消去期間  
 D4、E4、F4…高速転送パルス  
 B4…水平走査期間  
 G4…水平走査期間  
 C4…チャージパルス  
 H4…水平転送パルス

[図22]

1600画素

G11	Mg12	G13	Mg14	G15	Mg16	G17	Mg18	G19	Mg19	G20	G21	Mg122
Ye21	Cy22	Ye23	Cy24	Ye25	Cy26	Ye27	Cy28	Ye29	Cy29	Ye211	Cy212	
Mg31	G32	Mg33	G34	Mg35	G36	Mg37	G38	Mg39	G39	Mg311	G312	
Cy41	Ye42	Cy43	Ye44	Cy45	Ye46	Cy47	Ye48	Cy49	Ye49	Cy410	Cy411	Ye412
Mg51	G52	Mg53	G54	Mg55	G56	Mg57	G58	Mg59	G59	Mg510	Mg511	G512
Ye61	Cy62	Ye63	Cy64	Ye65	Cy66	Ye67	Cy68	Ye69	Cy69	Cy610	Ye611	Cy612
G71	Mg72	G73	Mg74	G75	Mg76	G77	Mg78	G79	Mg79	G711	Mg712	
Cy81	Ye82	Cy83	Ye84	Cy85	Ye86	Cy87	Ye88	Cy89	Ye89	Cy810	Cy811	Ye812
Mg91	G92	Mg93	G94	Mg95	G96	Mg97	G98	Mg99	G99	Mg910	Mg911	G912

1000画素

【図23】

800画素

$G_{11} + G_{13}$ + $G_{32} + G_{34}$	$Mg_{12} + Mg_{14}$ + $Mg_{31} + Mg_{33}$	$G_{15} + G_{17}$ + $G_{36} + G_{38}$	$Mg_{16} + Mg_{18}$ + $Mg_{37} + Mg_{39}$
$Ye_{21} + Ye_{23}$ + $Ye_{42} + Ye_{44}$	$Cy_{22} + Cy_{24}$ + $Cy_{41} + Cy_{43}$	$Ye_{25} + Ye_{27}$ + $Ye_{46} + Ye_{48}$	$Cy_{26} + Cy_{28}$ + $Cy_{47} + Cy_{49}$
$Mg_{51} + Mg_{53}$ + $Mg_{72} + Mg_{74}$	$G_{52} + G_{54}$ + $G_{71} + G_{73}$	$Mg_{55} + Mg_{57}$ + $Mg_{76} + Mg_{78}$	$G_{56} + G_{58}$ + $G_{77} + G_{79}$
$Ye_{61} + Ye_{63}$ + $Ye_{82} + Ye_{84}$	$Cy_{62} + Cy_{64}$ + $Cy_{81} + Cy_{83}$	$Ye_{65} + Ye_{67}$ + $Ye_{86} + Ye_{88}$	$Cy_{66} + Cy_{68}$ + $Cy_{87} + Cy_{89}$

500画素

【図24】

$G_{11} + G_{13} + G_{15} + G_{17}$ + $G_{22} + G_{24} + G_{26} + G_{28}$ + $G_{31} + G_{33} + G_{35} + G_{37}$ + $G_{42} + G_{44} + G_{46} + G_{48}$	$R_{12} + R_{14} + R_{16} + R_{18}$ + $R_{32} + R_{34} + R_{36} + R_{38}$ + $R_{52} + R_{64} + R_{56} + R_{58}$ + $R_{72} + R_{74} + R_{76} + R_{78}$	$G_{19} + G_{111} + G_{113} + G_{115}$ + $G_{210} + G_{212} + G_{214} + G_{216}$ + $G_{309} + G_{311} + G_{313} + G_{315}$ + $G_{410} + G_{412} + G_{414} + G_{416}$
$B_{21} + B_{23} + B_{25} + B_{27}$ + $B_{41} + B_{43} + B_{45} + B_{47}$ + $B_{61} + B_{63} + B_{65} + B_{67}$ + $B_{81} + B_{83} + B_{85} + B_{87}$	$G_{55} + G_{57} + G_{59} + G_{511}$ + $G_{66} + G_{68} + G_{610} + G_{612}$ + $G_{75} + G_{77} + G_{79} + G_{711}$ + $G_{86} + G_{88} + G_{810} + G_{812}$	$B_{29} + B_{31} + B_{33} + B_{35}$ + $B_{49} + B_{51} + B_{53} + B_{55}$ + $B_{69} + B_{71} + B_{73} + B_{75}$ + $B_{89} + B_{91} + B_{93} + B_{95}$
$G_{91} + G_{93} + G_{95} + G_{97}$ + $G_{102} + G_{104} + G_{106} + G_{107}$ + $G_{111} + G_{113} + G_{115} + G_{117}$ + $G_{122} + G_{124} + G_{126} + G_{128}$	$R_{92} + R_{94} + R_{96} + R_{98}$ + $R_{112} + R_{114} + R_{116} + R_{118}$ + $R_{132} + R_{134} + R_{136} + R_{138}$ + $R_{152} + R_{154} + R_{156} + R_{158}$	$G_{99} + G_{911} + G_{913} + G_{915}$ + $G_{1010} + G_{1012} + G_{1014} + G_{1016}$ + $G_{1119} + G_{1111} + G_{1113} + G_{1115}$ + $G_{1210} + G_{1212} + G_{1214} + G_{1216}$
$B_{101} + B_{103} + B_{105} + B_{107}$ + $B_{121} + B_{123} + B_{125} + B_{127}$ + $B_{141} + B_{143} + B_{145} + B_{147}$ + $B_{161} + B_{163} + B_{165} + B_{167}$	$G_{135} + G_{137} + G_{139} + G_{1311}$ + $G_{146} + G_{148} + G_{1410} + G_{1412}$ + $G_{167} + G_{168} + G_{1611}$ + $G_{180} + G_{168} + G_{1611} + G_{1613}$	$B_{109} + B_{1011} + B_{1013} + B_{1015}$ + $B_{129} + B_{1211} + B_{1213} + B_{1215}$ + $B_{149} + B_{1411} + B_{1413} + B_{1415}$ + $B_{169} + B_{1611} + B_{1613} + B_{1615}$

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 解像度の劣化のない拡大撮像を得る。

【解決手段】 第1の撮像領域201の画素をn (nは自然数) 画素加算して読み出す第1の読み出し手段と、第1の撮像領域よりも小さい第2の撮像領域202の画素を非加算、またはm (m < n ; mは自然数) 画素加算して読み出す第2の読み出し手段と、を有する。

【選択図】 図18

出願人履歴情報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名 キヤノン株式会社